



シカ柵工 (檜岳山)



育成天然林



階段工 (径路)

しかし、こうした取り組みが成果をあげるかどうかは森林が果たす多様な役割を人々がどれだけ理解できるかに懸かっているという。高橋さんは、自らの手で森林の管理に務めるとともに、これまでに培った膨大な知識をもとに多くの人々に森林の重要性を伝えてきた。

「森林には、木材資源の供給源としての役割だけでなく、水害や潮害の防備、雪崩や落石の防止、魚の繁殖環境としての役割(魚つき林)、なかには飛行機が空港位置を把握する助けとなる役割(空港目標林)など多彩な側面があります。また、世界有数の野生きのこ発生国でもある日本において、森林は山菜やきのこなど山の幸の宝庫でもありません。約4000種にもものぼる野生きのこは、手軽に採集で

きる人気の高い山菜の1つですが、その中には有毒なものもあるので注意が必要です。特に注意が必要なのは、ツキヨタケ・カキシメジ・クサウラベニタケ・ニガクリタケ・シロタマゴテングタケ・ドクツルタケの6種で、毎年7割以上の方が中毒症状を起しています。毒きのこに関してはナスと一緒に煮ると毒が抜けるといった迷信や、地域ごとに異なる呼び名、日本の野生きのこに関する研究が8割程度しか進んでいないという現状などもあり、油断は禁物です。きのこ狩りの際は、十分な知識を持った人と同行させ、気をつけながら楽しむようにしましょう」

今一度、森林がもたらす恩恵に思いを馳せ、森林を守り続けていくことは、今後の私たちの使命といっても過言ではないだろう。(ライター/宮田泰輔)



株式会社 高橋林業
たかはしりんぎょう
042-689-2848 takahashi-forestry@honey.ocn.ne.jp
神奈川県相模原市緑区牧野8772
http://www.takahashi-forestry.com/



ムキタケ(食)



チャナメツムタケ(食)



ホウキタケ(食)



ウラベニホテイシメジ(食)



山のプロフェッショナルが伝える 森林の重要性と新たな林業のカタチ

代表取締役 高橋正二さん

山梨県庁退職後、森林組合の参事を勤め、林業経営の知識を深める。49歳で独立し、「株式会社高橋林業」を設立。次世代にも森林の大切さを伝え、100年後にも残る山林づくりに励んでいる。

これまでのイメージを払拭する「スマート林業」に着目

森林に関わる知識から林業の見識を深め、「株式会社高橋林業」を設立した高橋正二さん。森林管理や林業に携わり続けて60年以上になる高橋さんは、「森林の大切さを知り、世代を超えて守り抜いてほしい」との想いを胸に、従業員の技術・ノウハウの向上や職



山頂から江ノ島方面を望む。

場環境の近代化に取り組んでいる。

「森林を管理する林業は、3K(きつい・危険・汚い)、または、給料が低いを入れて4Kという言葉で表されるほど大変です。さらに、林業に関する資格を取得するには15年以上かかり、そうした背景もあり、日本では1980年をピークに林業従事者が3分の1まで減少して今日の林業界では、



丸太筋工(運搬)



植栽工(ケヤキ)

「林業の効率化はスマート林業」に注目が集まっています」
同社では、従業員全員にPCを配布し、森林情報のデジタル化やICTを活用した生産管理手法を導入した。さらに、林野庁の支援事業をフル活用し、林業技士や流域森林管理士などの資格取得をバックアップ。時代が求める林業の近代化を推進させてきた。

林業のプロフェッショナルに聞く 森林を取り巻く諸問題とその展望

森林に関する知識から林業の見識を深め、「株式会社高橋林業」を設立した高橋正二さん。日本の林業界が抱える諸問題や「森林環境税」が創設された経緯について、高橋さんにお話を伺いました。



株式会社高橋林業
代表取締役 高橋正二さん
神奈川県出身。山梨県庁退職後、森林組合の専事を勤め、林業経営の知識を深める。49歳で独立し、「株式会社高橋林業」を設立。

森林を取り巻く環境も年々変わりつつあると、高橋さんは語ってくれました。

「私が子どもの頃は川がプールであり、野山が公園でした。遊びの中から自然に想像力や身近に潜む危険、自然の怖さなどを感知取っていたような気がします。当時の子どもたちはそのようなことを経験から身に付けていたので、想像力豊かだと思いきや、近年では学校から遊び場までコンクリートなどの人工物に囲まれて、子ど

もたちの行動範囲が狭まっているのではないかと懸念しています。柔らかく、温もり溢れる木々に直接触れることで森林の大切さを知り、想像力豊かな心優しい子が多く育ってほしいですね。また、森林は資源の供給源としての役割だけでなく、二酸化炭素を吸収し酸素を作ってくれる他、保水機能や土砂崩れ、水害の防備機能なども兼ね備えており、私たちの生活には欠かせない役割を果たしています。しかし、森林所有者の他自治体への流出や、農家や林業の高齢化、後継者不足などにより手入れのいき届かない森林が増加し、境界の不明確な山林や放置された森林が多く見受けられるように近年はなってきました。その結果として下層植生が乏しい森林が増え表土が流出し、土砂災害を誘発しているよう

に思えます。先日の「平成30年7月豪雨」では、西日本各地で未曾有の洪水や土砂災害があつたのは記憶に新しいかと思えます。このような森林を取り巻く諸問題を解決すべく、2019年度税制改正において「森林環境税」が国税として新たに創設されることになりました。これは国民一人あたり1,000円を課税し、森林の管理・整備や林業従事者の育成などに充てるというものです。この施策が軌道に乗るまでには10年近く掛かるかと思えますが、私は先進国である日本が世界に先駆けて「森林環境税」の導入を決めたことには大きな意義があるように思います。「森林環境税」を通じ森林を取り巻く環境は大きく変貌を遂げ、新しい時代を迎えるべく大きな一歩を踏み出したように思えます」

